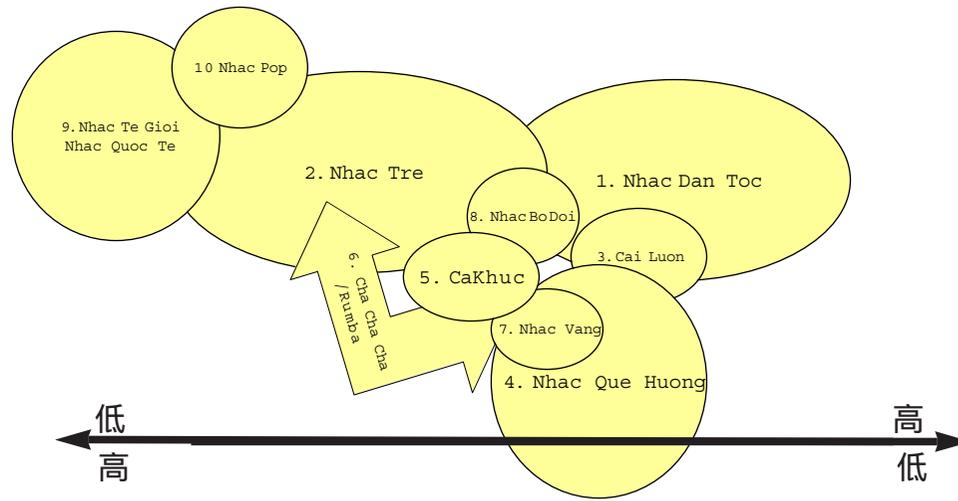


資料-1. ベトナム語ポピュラー音楽の簡略史と用語ほか



ジャンルからみたベトナム語「ポピュラー音楽」

一般的にベトナムでは「ポピュラー音楽」という言葉を用いず、また特定の音楽を指し示すこともないので、それに当たるベトナム語は一般的ではない。ここではよく用いられる「Nhac Tre」という言葉を中心にベトナム語「ポピュラー音楽」の対象となると思われる音楽について言及する言葉を図式的に説明しておく。左図の番号と対応している。

1. Nhạc Dân Tộc (訳: 伝統音楽)

伝統音楽だが、メディアの露出度や用いられ方からみて「ポピュラー/伝統」と切り離せない。また、現代風にアレンジした民謡などはNhac Treの歌手がしばしば歌う。

2. Nhạc Trẻ (訳: 若者音楽)

Nhac Treは伝統音楽の対語ではないが、実際の用いられ方は伝統音楽以外のものをなんでも差し示すことができる言葉。日本語の「ポップス」という言葉に最も近い意味合いで使われる。

3. Cải Lương (訳: カイルーン/改良)

南部の伝統的アマチュア歌劇のことで、伝統音楽を近代的に発展させたもの。涙モノからからお笑いまで、大衆的な人気芸能と言える。

4. Nhạc Que Hương (訳: 故郷の音楽)

カイルーンの音楽部分だけを取り出して、伝統的メロディーを用いた歌謡として発展したもので、「故郷への想い」が一貫したテーマ。リスナーによって異なる故郷が、越僑には複雑な意味を持たせ人気である。

5. Ca Khúc (訳: 歌曲)

伝統音楽とNhac Treを分けるキーとなる言葉で、作曲家のある近代の名曲をさす。Nhac Que HươngはCa Khúcであるが、ヒット中のNhac Treを歌曲とは言わないようだ。ベトナム人は曲を歌手の持ち歌として捕らえず作曲家単位で捕らえる傾向がある。

6. Cha Cha Cha/Rumba (チャチャチャ/ルンバ)

他の音楽ジャンルと同様にリズム名を用いて音楽ジャンルを示すのもベトナム音楽の特徴である。二つのリズムはベトナム人の中で極めてよく浸透しており、どのジャンルの音楽もこのリズムであればリズム名で呼ぶことがある。

7. Nhạc Vàng (訳: 黄色の音楽)

Nhac Que Hươngのなかでも1975年以前に流行っていた音楽を特に越僑歌手が歌っている時によぶ名称(参考: Asia Forum / 90年ハノイの音楽と生活 / 鳩尾稔著)

8. Nhạc Bo Doi (訳: 軍隊の音楽)

歌曲の一部で共産党や人民軍の賛歌を中心としたジャンル。Nhac Treとはかけ離れているが重なり合う部分もある。ベトナムのみ。

9. Nhạc Te Gioi/Quoc The (世界/国際の音楽)

海外の音楽を指し示すときに使う。

10. Nhạc Pop (ポップの音楽)

POP/Rock/JAZZ/HIP HOP/RAPなど海外の音楽の影響のあるものは英語をそのまま用いることがあるが、JAZZ以外は曲単位でしか用いないようだ。

ベトナム語ポピュラー音楽の簡略事情

- 「中国」/「チャム」/「クメール」などの影響を受けた伝統音楽からの影響と近代化「芸術音楽」の大衆化からみられるさまざまなジャンル
- フランス植民地時代に生まれた「西洋音楽」との融合
反抗の音楽とナショナリズム
- 南北分断と「ベトナム戦争」下のポピュラー音楽
北部ベトナムでの(1.2.)の発展
世界的反戦運動の存在と南部ベトナムでの「フォーク・ミュージック」の発展
- 音楽「市場」におけるベトナム語圏という空間への広がり
 - ベトナムでは...
革命後から刷新(ドイモイ)までのポピュラー音楽
西欧音楽文化からの「断絶」と独自のポピュラー音楽の形成
 - 在外ベトナム語圏では...
アメリカ西海岸/フランスでの移民・難民社会の巨大化
エスニック・メディアを含む「多国籍」エンターテインメント産業の存在
マス・メディア化する越僑のベトナム語ポピュラー音楽
- グローバル化のなかのベトナム語ポピュラー音楽
 - ベトナムでは...
革命後から刷新(ドイモイ)までのポピュラー音楽
越僑音楽の逆流と流行と規制
国内音楽の西洋化と、越僑音楽の衰退
 - 「在外ベトナム語圏」では...
アメリカ西海岸/フランスでの移民・難民社会の巨大化
伝統に回帰する越僑のベトナム語ポピュラー音楽
二世のリスナー/エンターテイナーの登場と英語化・多様化
反共意識の変化とベトナムのポピュラー音楽の受け入れ



米/仏/豪に展開する音楽プロダクション「Thuy Nga」のホームページ。ビデオシリーズ「Paris By Night」は越僑社会で大人気



(ベトナムのアイドル Tam Ca Ao Trang は日本デビューも)

(70年代は日本でも人気の Khanh Ly)

資料-2. 越僑社会のスター歌手と経歴による分類

--1975年以前からのスター--



Elvis Phuong

1960年代前半からサイゴンでロックバンドとともに活躍。力強い歌声がの実力派で、越僑・ベトナム問わず人気の歌手。

Thanh Tuyen

幼少の頃から活動歴の長い南ベトナムのスター。1979年にアメリカに移住。独特のスタイルの歌唱は誰にも似ていない。

Y Lan

スターの家族に生まれ、サイゴンで歌謡カフェ経営していたが陥落で移民。出演料の最も高い歌手の一人。在日経験がある。



Shayla

Thanh Tuyenの娘で移民後に生まれた二世歌手。移民の世代としての二世でもあり、新世代の歌手として活躍中。

Nguyen Cao Ky

南ベトナムの政治家Nguyen Cao Kyの娘で亡命後はアメリカ育ち。越僑メディア産業の政治性が分かる。主にMCで活

--思い出としての二世--



Hoang Lan

Kim Tuyenという有名な歌手の娘であり、1989年に移民。伝統的な歌やステージスタイルで近年人気を集めつつある。

The Son

ベトナムで活動していた歌手だが、1990年代に移住。演奏家であり、ベトナム伝統歌謡のスタイルにコントを交えて人気。

--ベトナムからの歌手流出--



Truc Linh Tuc Lam

90年中盤にベトナムの歌謡コンテストで優勝し、ホーチミン市で活躍していたが移民。音楽産業生き残り苦労が分かる。

Huong Lan

南部ベトナムの歌曲劇カイルーンの実力派だが、近年になって移民。ベトナムでも大人気の数少ない越僑歌手である。

--アメリカ育ちの越僑二世--



Don Ho

アメリカ育ちの越僑二世。アート専攻の学生から、派手な無国籍風パフォーマンスで人気を集める若手歌手に。来日有り。

Phi Phi

アメリカ育ちの越僑二世。アルバムの半数の曲は英語で、コンサートでもブラコンのカバーなどを歌っている。来日経験有り。

Uyen Mi

アメリカ育ちの越僑二世で姉妹で歌手として活動。アメリカンポップとベトナムの伝統の混ざった不思議なニューウェイブ。



Nguyen Ngoc Ngan

南ベトナムの軍で英語教師をしていたが1978年にボートピープルとして難民に。その後は小説家として、またMCとして

Thanh Ha

高校卒業後に難民に。1991年にフィリピンの難民キャンプで美人コンテストに優勝して以来、様々なスタイルの歌で人気。

--難民から歌手へ--



Vu Khanh

サイゴン音楽大学卒業後の1975年に難民に。故郷を想う歌を中心に人気。越僑の複雑な故郷への想いをパフォーマンスに。

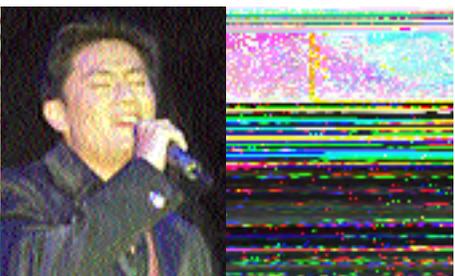
Phi Nhung

南ベトナム最大の基地プレイクで生まれた、いわゆるアメラジアン。音楽産業自ら役割モデル性を強調しているのが分かる。

Lam Nhat

中国系ベトナム人歌手で、中国語のほか英語、フランス語などで歌う。難民に多い中国系ベトナム人の役割モデルである。

--役割モデルとしてのエスニシティ他--



Pham Duy

1950年代から活躍していた有名な作曲家。ベトナムでは曲を語るとき、歌手よりも作曲単位で語ることが多い。

資料-3. 日本のベトナム語エスニック・メディア

Nguyet San MEKONG (月刊メコン/メコン通信)



- 1) 使用言語：ベトナム語、日本語
- 2) 読者出身地：ベトナム、日本
- 3) 創刊年：1985年
- 4) 発行元：メコンセンター/東京
- 5) 発行人：Do Thong Minh
- 6) スタッフ：
 - 正社員2名 / 契約社員・パート7名 / 編集は不特定
- 7) 発行頻度と部数：月刊 / 1000部
- 8) スタイル：A4 / 雑誌 / 約60頁
- 9) 購読料 / 配付方法：
 - 年間4800円
 - 郵送と発行場所で据え置き
- 10) 日本国内配付地域：全国

食材や書籍などを販売するコミュニティー・ショップの機関誌的な役割を持つメディア。ベトナム語によって書かれたメディアのなかではもっとも発行部数が多く、扱われる内容は各種ニュースから娯楽情報まで幅広く、雑誌の形態をした総合紙である。ベトナム語エスニック・メディアのなかでは日本語欄を持つものは少ないが、この「月刊メコン通信」には4-5ページの日本語欄が設けられている。主に在日ベトナム人の同胞のための生活情報や知識、知恵のために向けられた情報誌。

「メコンセンター」は、1985年に東京品川区にあるオーナーの自宅で、注文販売による無店舗ショップとしてオープンした。1994年に東京大井町の商店街にある雑居ビルに移転し、店舗販売を始めた。現在は2階と3階のフロアを利用して店舗兼事務所を構えている。雑貨販売のほか、翻訳や通訳のサービス、ピサや航空券の手配などの事務を行っている。また店舗兼事務所の上のフロアは「越・日文化交流クラブ」と名付けられていて、ベトナム語講座やベトナム料理教室、コンピューター教室を開催している。

「メコンセンター」を経営して、これまで「月刊メコン通信」の編集をほぼ一人でやってきたのがド・トン・ミン氏。1970年に留学生として来日し、1975年に大学を卒業するが、同年4月にはサイゴンが陥落、日本に亡命し、在日ベトナム人のための通訳や品川の国際救援センターなどの仕事を始め、現在に至る。

ベトナム語エスニック・メディアについては以下の雅稿を参照のこと

日吉昭彦、「日本におけるベトナム語エスニック・メディアの現在」～その1：在日ベトナム人社会における「送り手」の役割とメディアの機能～、2000年3月、成城コミュニケーション学研究、第2号、p16-p66

本発表で「エスニック・メディア」という場合、以下の研究で示された定義に従っている。

- 白水繁彦編、「エスニック・メディア -多文化社会日本をめざして」、明石書店、1996年
- 白水繁彦、「エスニック文化の社会学 -コミュニティー・リーダー・メディア-」、日本評論社、1998年
- 高梨成子、「日本における外国人のメディア利用と機能に関する調査研究 -日本国内の外国人問題に対するコミュニケーション論的アプローチ」、東京大学大学院修士論文、1993年
- 町村敬志、「日本における外国人メディアの展開と文化形成に関する研究」、トヨタ財団助成研究報告書、1992年
- 町村敬志(a)、「エスニック・メディア研究序説」、一橋論叢、第109巻第2号、1993年
- 町村敬志(b)、「越境するメディアと日本社会」、一橋論叢、第110巻第2号、1993年
- 町村敬志、「エスニック・メディアの歴史的変容 -国民国家とマイノリティの20世紀」、社会学評論 44号、1994年

Nguyet San Hiep Hoi (月刊協会)



- 1) 使用言語：ベトナム語
- 2) 読者出身地：ベトナム
- 3) 創刊年：1990年
- 4) 発行元：在日ベトナム人協会 東京
- 5) 発行人：不明
- 6) スタッフ：不明
- 7) 発行頻度と部数：
 - 月刊 / 不明 (400程度)
- 8) スタイル：B5 / 雑誌 / 約70頁
- 9) 購読料 / 配付方法：
 - 年間5000円 / 郵送のみ
- 10) 日本国内配付地域：全国

月刊の総合雑誌で政治的言論色が強い。芸能記事は少ないが発行団体は今年Phi PhiやDon Hoを招聘してコンサートを行った。

Ban Tin Thanh Huu (親善ニュース)



- 1) 使用言語：ベトナム語
- 2) 読者出身地：ベトナム
- 3) 創刊年：1995年
- 4) 発行元：
 - かながわベトナム親善協会
- 5) 発行人：--
- 6) スタッフ数：不明
- 7) 発行頻度と部数：隔月刊 / 800
- 8) スタイル：
 - B5 / 新聞 / 約25-30頁
- 9) 購読料 / 配付方法：
 - 無料 / 郵送のみ
- 10) 日本国内配付地域：
 - 神奈川地区在住ベトナム人

言葉が分からない難民のために、生活情報などを提供するのが目的

Phung Vu Loi Chua (祈りの言葉に忠実)



- 1) 使用言語：ベトナム語
- 2) 読者出身地：ベトナム
- 3) 創刊年：1983年
- 4) 発行元：
 - 在日ベトナムカトリック共同体
- 5) 発行人：
 - 在日ベトナムカトリック共同体
- 6) スタッフ数：不定期
- 7) 発行頻度と部数：月刊 / 700
- 8) スタイル：
 - B5 / 雑誌 / 約80-100頁
- 9) 購読料 / 配付方法：
 - 無料 / 郵送と据え置き
- 10) 日本国内配付地域：全国

カトリック教会のミサ情報が中心の雑誌

Tieng Vong Que Huong (故郷の響き声)



- 1) 使用言語：ベトナム語 / 日本語
- 2) 読者出身地：ベトナム、日本
- 3) 創刊年：1996年
- 4) 発行元：カトリック鹿島田教会
- 5) 発行人：Pham Dinh Son
- 6) スタッフ：不明
- 7) 発行頻度と部数：
 - 月刊 / 不明 (400程度)
- 8) スタイル：B5 / 雑誌 / 約70頁
- 9) 購読料 / 配付方法：
 - 無料 / 寄付 / 郵送のみ
- 10) 日本国内配付地域：全国

在日ベトナム人二世の親子関係を扱う雑誌

KFCニュース



- 1) 使用言語：ベトナム語
- 2) 読者出身地：ベトナム
- 3) 創刊年：1998年
- 4) 発行元：
 - 神戸定住外国人支援センター
- 5) 発行人：--
- 6) スタッフ数：不明
- 7) 発行頻度と部数：隔月刊
- 8) スタイル：
 - B5 / ニュースレター / 4頁
- 9) 購読料 / 配付方法：
 - 無料 / 郵送・据え置き
- 10) 日本国内配付地域：神戸中心

発行団体の広報紙で生活情報提供と活動報告が中心。

Noi Vong Tay (手と手)

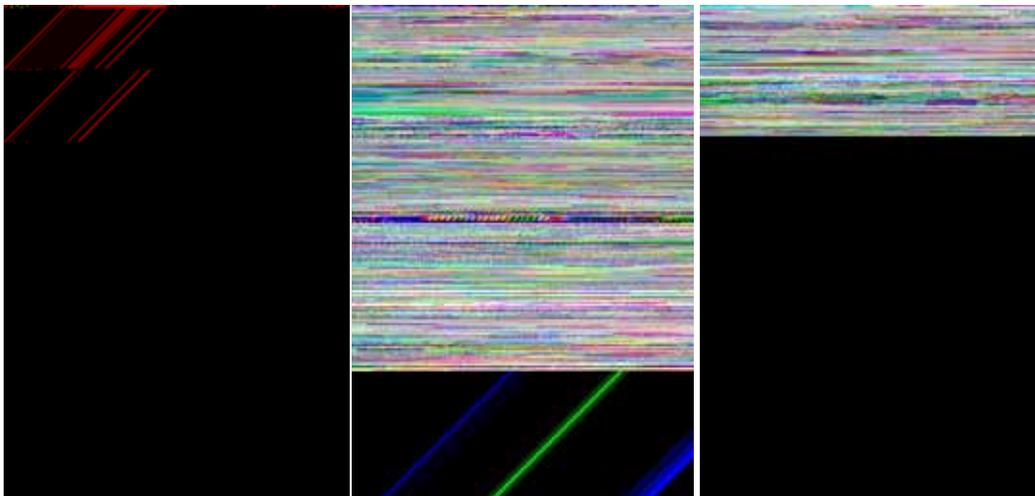


- 1) 使用言語：ベトナム語
- 2) 読者出身地：ベトナム
- 3) 創刊年：1998年
- 4) 発行元：
 - 国際労働運動研究協会
- 5) 発行人：--
- 6) スタッフ数：不明
- 7) 発行頻度と部数：月刊
- 8) スタイル：
 - B4 / ニュースレター / 1頁
- 9) 購読料 / 配付方法：手渡し
- 10) 日本国内配付地域：なし

労働省認可の社団法人が研修生向けに発行する一枚の情報紙

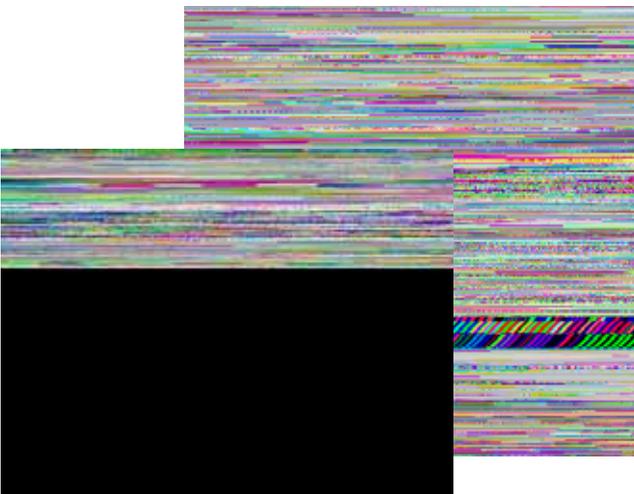
資料-4. メコン通信記事にみるメディア・イベント性

月刊メコン通信の表紙を飾る出演者たち



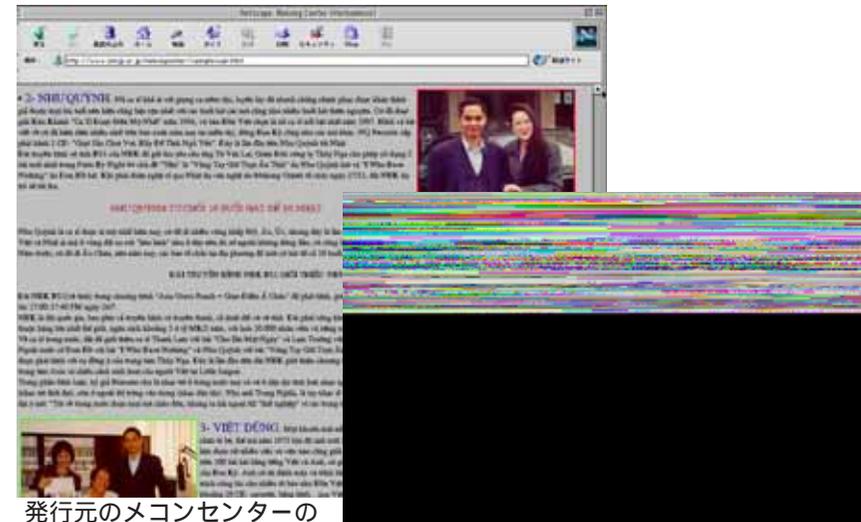
1999年11月号（左）には、出演者の越僑歌手のAi Vanと在日ベトナム人のNgoc Long が表紙に。1999年12月号（中）には、越僑歌手のManh Dinhと在日ベトナム人のTuyet Hoa が表紙に。2000年6月のコンサートの開催半年前から毎号の表紙には案内が掲載されている。2000年6月号（右）はコンサート前に読者に届き、パンフレットの様相だ。

月刊メコン通信の記事に登場する出演者たち



1999年11月号（左）に掲載された越僑歌手のAi Vanのプロフィールと、1999年12月号（右）に掲載された在日ベトナム人のTuyet Hoaのインタビュー記事。ほぼ同じ紙面量で紹介されているのが分かる。

企画準備段階を記事化する月刊メコン通信



発行元のメコンセンターのHPIに掲載された、記事と同内容の98年コンサートの企画紹介。越僑歌手のNhu Quynh（上）とViet Dung（下）と写真を撮る主催のDo Thong Minh。記事は招聘のための活動記録。2000年6月号に掲載された、アオザイファッションショーのリハーサルの模様（右）。このように準備段階を記事化することでメディア・イベント性を演出している。



1999年2月号（右）には。98年12月のコンサートの模様を写真とともにインビュー記事が掲載されている。左手写真は越僑歌手のViet DungとNhu Quynh、右手には在日ベトナム人の歌手やバンドのメンバーも。2000年6月号にはこれから演奏を担う「New Sky」バンドの写真が。同様の記事は他多数ある。

資料-5. ベトナムの春音楽会 / Van Nghe Xuan Ky Mao について

1. 「月刊メコン通信」に掲載された日本語によるコンサートの案内

コンサートの概要（左のパンフレットに記載の通り）

とき：1998年12月27日（日）

場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」小ホール

時間：13:00pm-16:00pm / 17:00pm-20:00pm

値段：2000円 / 4000円 / 6000円 / 8000円 / 10000円

プログラムの概要

出演：左のパンフレットおよび下図のプロフィールの通り

内容：1. 主催者挨拶

2. コンサート

・在日ベトナム人の歌手と越僑歌手が交互に登場

・一人あたり2曲から3曲づつのオムニバス形式

・越僑歌手は1ステージで2回登場する

・演奏はNew Skay BandとMinh Tanが連続して演奏

3. 協力者への感謝とプレゼントの贈呈

4. チケット番号を用いたビンゴとプレゼント

5. フィナーレ

フィールドノーツより

・チケットの購入はメコンセンターに電話で予約するか、直接訪問して購入する。神奈川県厚木市にあるベトナム料理店では代理店販売もしていた。実際には多くのチケットは当日の会場窓口で販売された。立ち見のチケットは1000円で当日販売され、昼の部は特に定員を越えた観客がチケットを購入した。

・会場の選定は二つの理由による、一つはメコンセンターが品川区にあることから区民ホールのレンタル料が割引になることである。二つには、品川区大井町には「難民救援センター」があり、在日ベトナム人に馴染んだ場所だからである。漢字や地図の読めない同胞への配慮とのこと。

・1日2ステージの理由は、神奈川県や関西地方などから来客が多く、日帰りで見るとするには昼間の部を設ける必要があること。来客数が見込めたことなどによる。

・当日は、ボランティア・スタッフとしてメコンセンターのアルバイトのベトナム人ほか、左パンフの協力者記載にある団体から日本人スタッフもボランティアとして参加した。日本人スタッフは他に機材レンタルの予約や、歌手の送り迎えや観光案内、招聘業務の補助なども行っている。ベトナム人スタッフは受け付け、会場ほか大道具など。

・リハーサルなどの当日の演奏者のスケジュールはほとんどなく、演奏者のMinh Tan以外は当日までバンドとの打ち合わせはなかった。曲のキーなどが合わずトラブルもあった。ぶっつけ本番で始まり、コンサート中にもプログラムは適時変更された。選曲はMCで越僑ラジオ曲ディレクターのViet Dungが選定している。在日ベトナム人の歌手は自身の得意曲を選んだ。

・日本人観客へ感想を聞くと、まず集まった客層に驚いている。ほぼ95%がベトナム人で、親子連れも多く年齢層が幅広い。またステージに上って写真を撮るものも多い。ベトナム語を話せない子供がベトナム語で歌うのがうれしいと言う在日ベトナム人の言葉。

資料-6. 2000年夏の音楽会「ベトナム人・日本人の祭り」 / Van Nghe He 2000

1. 「月刊メコン通信」に掲載された日本語によるコンサートの案内

コンサートの概要（左のパンフレットに記載の通り）

とき：2000年6月10日（土）

場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」大ホール

時間：13:00pm-17:00pm

値段：4000円 / 6000円 / 8000円

プログラムの概要

出演：左のパンフレットおよび下図のプロフィールの通り

内容：1. アオザイと歌のショー

2. 主催者挨拶 / ゲストの挨拶

2. コンサート

・越僑歌手が中心に在日ベトナム人の歌手と交互に登場

・一人あたり1曲から2曲ずつのオムニバス形式

・越僑歌手は1ステージで1-2回登場する

・演奏はNew Sky Bandがメンバー交代しながら演奏

3. アオザイのファッション・ショー

4. コントが2回

5. フィナーレ

フィールドノーツより

・98年から一年半の間に、New Sky バンドはテト（ベトナムの正月）の同胞の集まりなどに参加した。練習場所を野外の倉庫から、当時よく練習終了後に集まっていたレストランに変え、機材を持ち込み昼間は練習、夜は生演奏を聞かせるライブレストランの出演者として活動していた。定期的な活動場所を得たが、レストランとの折り合い問題などでメンバー交代をくり返し、コンサート前はリーダー不在の状態での出演に望んだ。結果、演奏に影響がないとは言いきれず、主催者との連絡も密とはいえない状態であった。Khanh Lyの曲の演奏で弾き間違えたバンドと越僑歌手がぎくしゃくする場面もみられた。

・一方、司会に在日ベトナム人を登用し、ファッションショーやオープニングなどそれぞれの在日ベトナム人責任者が企画に参加し、人的交流の側面の強化とともに、コミュニティーリーダーの創出や、商業化への可能性も高まったといえる。ベトナム人スタッフ・日本人スタッフ問わずボランティアを使いこなす彼女たちの活躍は目覚ましいものがあり、コンサート成功への鍵であった。

・コンサートの内容では、前回と明らかに曲目が異なっていた。前回はNhac Vang と呼ばれる1975年以前のサイゴンの曲が中心であったが、今回の演目の中心は現在のベトナムで流行中の曲であった。これは明らかに越僑社会の担い手の世代の変化、ひいては反共意識やベトナム文化の扱いの変化が現れているといえてよいであろう。

・今回、来日したグループは前回とくらべて「グループ性」は少なく、企画は、主役のKhanh Lyをたてながら、おのおの出演者の独自性を生かした結果、バラエティさが現れたという印象を持っている。

・筆者のみた限り、日本人観客が多い以外では前回と顔ぶれがみられ同じ客層であった。

「春の音楽祭」出演者

来日した越僑歌手と演奏者



Nhu Quynh

92年にサイゴン歌謡コンテストで優勝。その後渡米してアメリカンドリーム的に大成功を収めた越僑歌手のスーパースタ

Viet Dung

1975年から難民として在米。アメリカン・カンントリーの演奏者として越僑社会で活躍。リトルサイゴンラジオのディレクタ

Ai Van

ベトナム伝統芸能で国際的に活躍していた実力派。ベルリンの壁崩壊時に亡命し越僑歌手に。絶大な人気で来日2回目。

Tuong

近年に移民してアメリカに渡る。実力を認められてNhu Quynhのプロダクションに参加し、オムニバスで作品が2枚。

Minh Tan

キーボーディストでアレンジャーとして多才な表現力で活躍。現在はホーチミン市に在住しているが、北米での生活も長い。

Ban Nhap New Skyの練習風景

Ban Nhap New Sky (ニュースカイ・バンド)は1998年の夏に、このコンサートのために結成された。これまで在日ベトナム人同士でバンドを結成したいという話はあったが、現在の在日ベトナム人は全国各地に点在して生活しているため、メンバー集めも、客集めも難しく、ほとんど実現しなかった。

リーダーのVuは難民として在日17年。定住後は音楽専門学校に通い、フィリピン向けの居酒屋で演奏をしていた。在日歴が長く日本語も流暢でネットワークもあることから、メンバーを集め、メコンセンターとバンドの間を取り持って、結成に至った。

難民として来日し日本社会に定住するベトナム人の新天地の心境を「New Sky」というバンド名に込めた。

練習は毎週日曜日に行われ、藤沢と厚木の間あたりの花木園と畑に囲まれた倉庫の隅のガレージで、あるいはほぼ野外で行われた。まさにガレージバンドだ。倉庫の持ち主は地元神奈川でリサイクル業を営む在日ベトナム人。12月のコンサート前は極寒のなか1日8時間近くかけて練習を。この倉庫は地元の音楽好きベトナムが集まる場所にもなった。

出演した在日ベトナム人の歌手と演奏者



Tuyet Hoa

神奈川県在住で、日本の高校を卒業後は会社員兼主婦に。呼び寄せで来日した。バンドは初めてで、元気のよい曲が得意。

The Lu

難民の家族のもとでタイやシンガポールで育ち、現在は埼玉県在住。ベトナム語を含め言葉はまだ不得意だが、歌唱力は抜群

Ngoc Anh

呼び寄せで来日し神奈川県在住。仲間のカラオケ大会などでよく歌っていたが、今回はバンドに参加する。悲しい曲が得意

Bich Thuy

呼び寄せで来日し在日7年と長い。在日ベトナム人社会との接点が少ないとのこと。今回は趣味を生かしてバンドで

Bao Tam

呼び寄せで来日し神奈川県在住の中国系。メコンセンターが協力し北米で録音したCDを発売している。伝統的歌謡を中心に

Ngoc Long

難民として来日して、神奈川県在住。インドシナ難民の集いなどでよく歌っていたので知名度もある。歌曲や名曲が得意。

Ban Nhap New Sky

Gi.のVuは呼び寄せで来日。他、Dr.のCung、Gi.のThanh、B.のDung、Per.のVuは難民で来日。CungとThanhは兄弟で在越時は家族バンドで従軍演奏をしていた。Dungはタイとラオスで生活が長くラオス人とバンドを。perのVuはリーダーで在日歴が最も長い。